

令和5年度第1回 帯広圏デジタル化推進協議会 議事概要

日時：令和5年11月2日（木）

13時30分～14時30分

場所：帯広市役所 4階会議室

1 協議の経過について

- ・事務局（帯広市 ICT 推進課）より、アドバイザリーボードにおける協議の経過と資料1の概要を説明した。

2 議題1：帯広圏デジタル化推進構想におけるキャッチフレーズについて

座長の進行により、各委員より発言があった。要旨は以下のとおり。

委員

- ・「ローカル」というと地方をイメージしてしまうため、世界にも繋がることを目指し「世界的拠点」という言葉が入っているのは良いと思う。ここは「ワールドクラス」というフレーズも考えられると思う。
- ・帯広圏といえば「農」を想起する人も多い。「食」に加え「農」もいれると他地域と差別化できる。伝わりやすさを考えると「食・農・健康」の3つが限度か。
- ・「帯広圏」の前に、“とかち”を入れることもよいと思う。
- ・ただ、色々考えたが、長くなってしまうので、結局は現在の案でよい。キャッチフレーズとしては現在の案の長さが限界と感じる。

委員

- ・「世界的拠点」という言葉について、構想は帯広圏が世界の中心を目指すのではなく、こうした取り組みを進めていることを「発信」できることが伝わると良い。
- ・「農」という言葉はあっても良いかと思う。

委員

- ・「世界的拠点」は、「世界に羽ばたく」や「世界に発信」といった言葉にしてはどうか。

委員

- ・世界を意識することは必要であり、日頃から職員にも伝えている。十勝や帯広圏には世界に発信できるブランド力があるので、「世界的拠点」という言葉も世界経済の中での視点で考えればよいと思う。

- ・「食と健康」というフレーズも適当な組合せだと思う。十勝はどこに行っても温泉があり、広大な自然もある。他の観光地とは違うポテンシャルがある。

座長

- ・「目で見える」「心で感じる」「舌で感じる」といった、心身の健康に繋がる地域として、産業政策を推進したり、情報を発信したりしていくという意味では、世界の中心を目指す取り組みともいえると思う。
- ・「農」の取り扱いは預かる。その他の部分は現在の案を原案としたい。

「農」の取り扱いは座長預かりとし、その他の部分は現在の案をもって原案とすることで承認された。

3 議題2：帯広圏デジタル化推進構想（原案）について

座長の進行により、各委員より発言があった。要旨は以下のとおり。

委員

- ・地域の資源が失われてから再度構築するのは大変だが、未だ残っている間にデジタルの力を活かし、縮小しつつも広域化することで残していける分野があると思っている。こうした分野で具体的な成果を出すことができればウェルビーイングの充実に繋がる。

委員

- ・カーボンニュートラルは、個々の自治体の単位で考えると森林面積等の前提条件がさまざま。広域の単位で取り組むことが適当であるから、現在の位置づけで良い。

委員

- ・ウェルビーイングは具体化されている一方、ローカルハブは現時点では具体化は難しいと感じた。
- ・構想を策定したのち、検討状況や関係者との合意形成、財源などを踏まえた取り組み推進の目安となる実行計画が必要ではないか。結果的にはこうした取り組みが、「参考指標」の達成に繋がっていく。

委員

- ・「分野と施策概要」において、主な対象者に「社会人」とあるが分かりにくい。

- ・「防災・生活インフラ」の分野のうち、道路占用申請のオンライン化は既に取り組んでいるが、道路台帳の適切な整備があつて、初めてオンライン化に結び付くと思っている。今後はこのあたりを課題として取り組んでいきたい。
- ・ウェルビーイングの「行政手続・内部事務」のうち、「内部事務」は表現を変えてはどうか。

座長

- ・個別の指摘については預かる。大筋については現在の案を原案として進めたい。

個別の指摘は座長預かりとし、その他の部分は現在の案をもって原案とすることで承認された。

3 今後について

事務局

- ・今後の流れとして、11月21日の帯広市議会総務委員会で報告を予定している。その後、1市3町で11月27日から1か月間の予定でパブリックコメントを行うなど意見聴取を行い、2月には最終案を作成、3月に構想の最終決定とする予定。